

教育研究所だより

令和7年度（2025年度）

1月号（通算262号）

輝動

（きどう：子どもが輝き、躍動するまち）

近江八幡市教育研究所

TEL 0748-36-5574

FAX 32-3352

メール

044800@city.omihachiman.lg.jp



そっと後押し

八幡中学校長 一伊達 統

私は休みの日、時間のあるときは寺の境内の草むしりや掃き掃除など作務*をしています。私にとって、振り返りをしたり、考えをまとめたりする大切な時間です。時節柄、落ち葉も多く、ゆっくりと思いを巡らしています。これまでの教員としての歩みを振り返ると、いくつもの節目があり、そのたびに失敗や迷いを経験しながら「このままでよいのだろうか」と自問し、試行錯誤を繰り返してきたことが思い出されました。その中でも、大きな気づきができたのは、研修会で参加した幼稚園の保育参観です。

子どもたちはボウルを使って粘土でお団子づくりをしていました。底の丸いボウルは不安定で、子どもが一人でこねようとしてもすぐに転がってしまい、うまくできません。私は、「底の平らなボウルを使わないのですか」と園の先生に尋ねました。すると先生は「底の丸いボウルを使うからよいのよ」との回答。なんのことも分からないまま子どもたちの様子を見てみると、不安定なボウルを手で支え固定する子が自然に現れ、協力して作業を進める姿が生まれました。子どもたちは「一人ではできないことも、誰かと力を合わせればできる」ということを、遊びの中で自然に体験していたのです。これは、先生方が環境を整え、子どもたちが自ら気づく場を用意した「そっと後押し」の結果でした。

この経験から、私は子どもたちを「引っ張る」だけではなく、「そっと後押し」する姿勢の大切さに気づきました。子どもは教師の言葉、仲間との関わり、環境の整え方など、さまざまな要素が結び合って成長します。私たちにできるのは、安心できる場を整え、耳を傾け、次につながるきっかけをつくってあげること。その小さな後押しが、子ども自身の歩みを支える力になるのだと思います。

今年度から、本校は生き抜く力育成研究指定校として取組を進めています。この「そっと後押し」の姿勢は、探究的な学びや課題解決の過程においても重要ではないかと考えています。問いを立て、試行錯誤しながら答えを見つけていく探究の本質は、教師がルールを敷いてしまえば失われます。必要なのは、問いを深める環境を整え、視点を広げるヒントを示し、失敗を恐れず挑戦できる安心感を与えることです。課題解決の場面でも、子どもたちが自ら課題を設定できるよう考えを整理する手助けや、仲間と協働する場を用意することが、子どもたちの学びを「そっと後押し」することになるのではないのでしょうか。

庭掃除は、掃いてきれいにしても、また葉が落ちてきます。けれど、それは自然の流れです。教育も同じように、子どもたちは日々新しい課題や迷いを抱え、また挑戦を繰り返しています。私たち教師にできるのは、その流れを止めることなく、そっと寄り添い、必要なときに小さな後押しをすること。とは言っても、私自身まだまだ道半ば。お釈迦さんの手のように、大きな心で静かに支えられる人間になりたいと、日々修行中です。まずは、脚下照顧から。

*作務：禅寺で僧が掃除などの労務を行うこと。修行の一つとみなされる。（デジタル大辞泉）

令和7年度（2025年度）近江八幡市教育研究発表大会

【日時】令和7年12月24日（水）13:30～16:35

【場所】安土文芸セナリヨ

【大会テーマ】近江八幡市を心の拠り所にして、よりよい未来を拓く子どもの育成
～生きる力から「生き抜く力」の育成を目指して～

開会行事



近江八幡市教育会会長 様、
滋賀県総合教育センター次長 様、
高島市立教育研究所参与 様、
東近江市立教育研究所長 様、
野洲市教育研究所副所長 様、
市教育委員の方々に出席いただき開会行事を行いました。



教育研究奨励者紹介

【団体の部】

北里幼稚園	西村 麻美 教諭	川口 なつ美 教諭
八幡中学校	西山 晶博 教諭	

【個人の部】

八幡小学校	濱田 真司 教諭
八幡小学校	小嶋 美菜 教諭
島小学校	内堀 祐輝 教諭
沖島小学校	堀口 真生 教諭
岡山小学校	大嶋 祐輔 教諭
金田小学校	田邊 心 教諭
桐原東小学校	竹本 慎太郎 教諭
馬淵小学校	西村 奈美子 教諭
北里小学校	寺島 彩加 教諭
武佐小学校	長澤 慎太郎 教諭
安土小学校	高田 翔椰 教諭
八幡東中学校	山崎 昂太郎 教諭



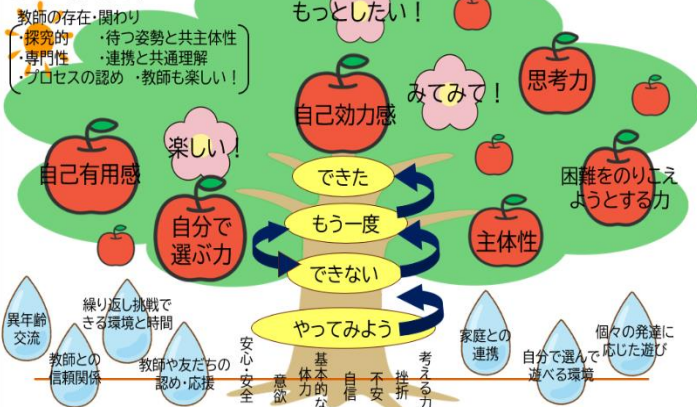
今年度は団体3名（2校）、個人12名の皆さまが、1年間の研究の成果や課題を研究奨励レポートにまとめてくださいました。1月28日（水）に、その努力と功績、また、今後への期待を込め、教育長より教育研究奨励賞を授与並びに副賞を近江八幡市教育会より贈呈していただく予定です。

来年度も、研究奨励の応募を行う予定です。特に「探究的な学び」に関心を持ち、実践をされている方は、ぜひ積極にご応募ください。お待ちしております。

“じぶんがすき あそぶのがすき ともだちがすき”な子どもの育成

～体を動かすことが楽しい!自分からやってみよう!と思える子どもを目指して～

6. まとめ



【参加者の感想】

- 話を聞いて「これは危ない」と、やる前から制止していることがあったと反省しました。子どもが試せる場・時間を大事にしていきたいです。(就学前)
- サーキットトレーニングの中で、私は子どもたちが安全に取り組むために教師が危険を回避することが重要だと思っていた。しかし、研究発表を聞かせてもらって、子どもが自ら危険を見つけて回避することも大切だと言う考え方が新しい発見だった。安心・安全・自信が子どものチャレンジ精神につながるということが改めてわかった(小学校)

危険だから遊びの環境を取り除くのではなく、幼児が自分で危険を感じられることや危険を回避できるようになること、安全に遊ぶためにどうすればよいかを考えられるようになることが必要で、そのためには、周囲の状況に気づけるよう教師が声をかけることが重要になると再認識し、教師間で共通理解をして遊びの見守りを行いました。

教師が意識をどこに向けるかで、遊びの環境は変わり、それに付随するようにして幼児の姿が変わっていきます。教師が意識することを共有できたことで、どのような力を育てるための遊びであるのかがわかり、一人一人に同じように接することができました。

教師は、完成形の動きができることを「できた」と評価するのではなく、「やってみようとする姿」を認め、「(挑戦)できたね」と声をかけることで、繰り返し遊ぶうち、スムーズにできるようになり、幼児の言動からは自信がついていることがうかがえるようになりました。

生きる力から『生き抜く力』育成プロジェクト調査研究報告

教育研究所
神谷 信広 研究員
八幡中学校
西山 晶博 教諭
桐原小学校
井本 匡子 教諭

「目の前の子どもたちに、これからの社会を“生き抜く力”を育成するために…、私たち教員に求められるものは?」という問いのもと、生きる力から『生き抜く力』の育成のために、教育研究所として今年度より取り組んでいる研究について、またその成果や課題について報告しました。

課題発見能力の育成に向け、探究的な学びを切り口として、2つの実践“ナイストライ”と“学びに夢中”に取り組んできました。“ナイストライ”では、八幡中学校西山教諭から、探究的な学びを学校全体で共有し校内研究として取り組んでいくべきという課題から来年度に向けての展望を、また“学びに夢中”では桐原小学校井本教諭より、探究のレベルを上げるためには、あれもこれもお膳立てしないで、子どもたちを信じ、委ねることの必要性を伝えていただきました。

来年度は市内全体として生き抜く力の育成を目指し、各学校の校内研究のテーマを、『生き抜く力の育成』と関わるものにし、校内研究と連動した実践を通して、市内に広めたいと考えています。

【参加者の感想】

- 探究のレベルがとても興味深いと思いました。就学前でも「投げかけ・過程・取組」など分類を変えたら生かせるなと感じました。(就学前)
- 「探究のレベル」については、自身の普通の授業ではレベル3以上を目指してはいたものの、その手立てがよくわからないままであることが多かったのですが、今回の発表が大きなヒントとなって自身の授業実践に生かせるのではないかという希望を持つことが出来ました。(中学校)

「探究的学習の質保証」

関西大学総合情報学部 黒上 晴夫教授

関西大学総合情報学部の黒上晴夫教授にご講演いただきました。講演の中で教えていただいたことをお伝えします。



◎「活動」から「子どもの変容」への視点転換

探究の質を高める際、学習活動をいかにダイナミックにするかといった「活動」に目を奪われがちだが、本質はそこではない。重要なのは、探究的な学習を通して子どもはどのような姿を見せるかという「子ども自身の変容」に関心を持ち、「子どもが育つということを信じて教育にあたる」こと。

◎シンキングツールを「思考の計算用紙」として使いこなす

ベン図やYチャートなどのシンキングツールは、図を完成させることが目的ではない。よくシンキングツールをどう評価したらよいかと聞かれるが、それは評価する必要がない。ツールは、必要なアイデアや知識を並べて一目で見渡せる状態にするための「思考の計算用紙」と捉える。そこから生み出された考えをちゃんと評価すること。ツールを使って情報を整理した先に、次の「問い」に対する「自分の考え(主張)」を作り出すための手段として機能させる。

シンキングツール／思考ツール

- ・アイデアを可視化する
- ・どう可視化するかを図形が導く（アフォーダンス）
- ・言語で表されたもの（主張や説明）が考え
- ・考えを作り出す【課題や問い】が大事



シンキングツール
は計算用紙
そこから考えをつくり
出すことが大事

◎「答えを出し、正解する文化」ではなく「考える文化」を

「正解がわからないと書かない」という「正解主義」の文化を捨て、まずは自分の考えを表現する「考える文化」を学級に創ることが重要。思考ツールを共通言語として全校で活用したり、生徒が教え合ったりする仕組みを作ることで、書くためのプロセスを身に付けられるようにするなど、教科を横断して子どもたちが自信を持って自分の考えを表現できる土壌を整える必要がある。

【参加者の感想】

- シンキングツールに興味はあったがどのような場合にどのようなものを使えるのかということがあまりわからなかったので、大変有意義な時間であった。もちろんシンキングツールは学びを深めるためのツールであり目的ではないので、探究という目的を果たすためには思考のスキルを高める事が必要で、そのためにどのような手法が有効か考えて必要とあらば活用していきたい。（中学校）
- 子どもの中に考えを形成することが大切であることがわかった。思考ツールを有効的に活用できるような情報の整理の仕方や、考えるための順序などを明確にし、思考に結びつくような支援をすることが教師の役割だと思った。思考することそのものもスキル(技術)であり、ただ考えるのではなく考え方もまた学ぶことが大切だと思った。（小学校）

年末のお忙しい中、研究発表大会にお越しいただきありがとうございました。教育研究奨励事業、研究取組報告の詳しい内容につきましては、年度末に作成します「令和7年度研究紀要」をご覧ください。

